

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 21
千葉県立八千代高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

知・徳・体を鍛える学習に取り組むと同時に、特別活動（部活動・生徒会活動・地域貢献活動）にも意欲的に取り組み、社会のリーダーとなる意欲にあふれる者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 集団討論	受検者6～7名・評価者2名による出題したテーマに沿った集団討論 検査時間：約10分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書

アの数値に、エ、オ、カについて加点（上限40点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。
イ 出欠の記録	3カ年皆勤等の場合は、総合的に判定する際の参考とする。
ウ 行動の記録	○が全くない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録	生徒会活動（生徒会役員等）、学校行事の記録について加点する。
オ 部活動の記録	部活動の記録（部活動の部長、県大会～全国大会等）について加点する。
カ 特記事項	各種検定試験、部活動以外のクラブチーム等での活動について加点する。
キ 総合所見	記載内容について、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 集団討論 [40点満点]

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価し、2名の評価者の評価の組合せ（aa～cc）ごとに得点化する。cを含む評価の組合せが1つでもある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 高校生活に対する意欲	高校生活（学習、部活動）に意欲的に取り組もうとしている。
イ 関心・態度	討論に積極的に参加し、テーマに沿って意見が述べられる。
ウ 思考・表現	テーマに関して、良く思考し、正しく表現できる。
エ 知識・理解	テーマに関しての、知識が豊かで、理解力がある。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（集団討論）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点	総得点
	評定（算式1）	加点	集団討論	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	40点	40点	$(715 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあつては後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜のための資料に加える。提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 21
千葉県立八千代高等学校 全日制の課程 家政科

1 期待する生徒像

被服製作や調理実習などの専門的な学習に取り組み、質の高い技術を習得しようとすると同時に、学校家庭クラブ活動をはじめ地域への貢献活動に意欲的に取り組む者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	受検者5名・評価者2名の集団面接 検査時間：1グループ約10分
(4) 適性検査	はさみを使った簡単な作業 受検者5名・評価者2名の適性検査 検査時間：1グループ約5分

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書

アの数値に、アの加点対象について加点（上限15点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 技術・家庭の評定値について加点する。
イ 出欠の記録	記載内容について、総合的に判定する際の参考とする。
ウ 行動の記録	○が全くない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録	生徒会活動等について、総合的に判定する際の参考とする。
オ 部活動の記録	活動内容について、総合的に判定する際の参考とする。
カ 特記事項	各種検定試験、部活動以外のクラブチーム等での活動について、総合的に判定する際の参考とする。
キ 総合所見	記載内容について、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接 [40点満点]

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを5点、bを3点、cを1点とし、2名の評価者の評価（各20点満点）を合計し、得点化する。

評価項目	評価基準
ア 家政科に対する意欲	家政科での高校生活に意欲的に取り組もうとしている。
イ 礼儀・作法・身だしなみ	基本的なあいさつ、対人作法等が身につけており、服装、頭髪等の身だしなみが整えられている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、わかりやすく回答をすることができる。
エ ものの考え方	家政科での学びにふさわしい考え方をしている。

(4) 適性検査 [40点満点]

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを5点、bを3点、cを1点とし、2名の評価者の評価（各20点満点）を合計し、得点化する。

評価項目	評価基準
ア はさみの使い方	はさみの扱い方に慣れ、利き手に合わせたはさみを使い、適切に作業できる。
イ 作業の正確さ	指示された形とおりに、滑らかに作業がおこなえる。
ウ 作業効率	効率よく作業ができる。
エ 理解度	指示内容を的確に理解し、指示通りに作業できる。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接・適性検査）の得点」を全て合計した「総合点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点		第2日の検査の得点		総得点
	評定（算式1）	加点	面接	適性検査	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	15点	40点	40点	$(730 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあつては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜のための資料に加える。提出されたことにより、不利益な取扱いはない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。

平成30年度 前期選抜の選抜・評価方法

学校番号 21

千葉県立八千代高等学校 全日制的課程 体育科

1 期待する生徒像

基礎運動能力及び特技とする運動能力に優れ、本校の『運動実技及び運動に関する知識・理論を修得し、体育スポーツの振興発展に寄与する人間の育成』という理念の実現への意欲にあふれる者

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 面接	評価者2名の個人面接 検査時間：5分
(4) 適性検査	<p>ア 基礎運動能力検査 検査時間：70分 スポーツⅠ領域（陸上競技、体操競技）から2種目、スポーツⅡ領域（球技）から2種目、スポーツⅥ領域（体づくり運動）から1種目の合計5種目</p> <p>イ 専門種目運動能力検査 検査時間：50分 次の専門種目のうち1つを出願時に志願者が口頭で申告する。 サッカー（男）、ソフトボール（男女）、陸上競技（男女）、 テニス（男女）、ハンドボール（男女）、バスケットボール（男女）、 バレーボール（男女）、体操（男女）、柔道（男女）、剣道（男女）</p>
(5) 志願理由書	志願者の直筆による「志願理由」及び「自己アピール」

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。

(2) 調査書

アの数値を調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	算式1で求めた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3カ年皆勤の場合は、総合的に判定する際の参考とする。
ウ 行動の記録	○が全くない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、部活動の記録及び特記事項	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 面接 [40点満点]

2名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

aを5点、bを3点、cを1点とし、2名の評価者の評価（各20点満点）を合計し、得点化する。評価cが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 志望の動機	志望の動機が明確である。
イ 高校生活に対する意欲	高校生活に対する目標、意識が明確である。また、高校生活（学習、部活動）に意欲的に取り組もうとしている。
ウ 質問に対する応答	質問内容を的確に理解し、わかりやすく適切に応答することができる。
エ 身だしなみ・態度	基本的な面接作法が身に付いており、適切な言葉遣いができ、服装、頭髪等の身だしなみが整えられている。

(4) 適性検査 [410点満点]

ア 基礎運動能力検査 [250点満点]

5種目を、それぞれ2名の評価者が、次の5つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（標準に達していない）・d（問題がある）の4段階で評価する。

aを5点、bを3点、cを2点、dを1点とし、2名の評価者の評価（各125点満点）を合計し、得点化とする。ただし、各種目で評価dが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
(ア) 意欲、態度	当該種目に積極的、意欲的に取り組んでいる。
(イ) 当該種目の技能観点1	当該種目における技能を身に付けている。
(ウ) 当該種目の技能観点2	当該種目における技能を身に付けている。
(エ) 当該種目の技能観点3	当該種目における技能を身に付けている。
(オ) 当該種目の技能観点4	当該種目における技能を身に付けている。

イ 専門種目運動能力検査 [160点満点]

専門種目を、それぞれ2名の評価者が、次の5つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（標準に達していない）・d（問題がある）の4段階で評価する。

aを16点、bを10点、cを6点、dを2点とし、2名の評価者の評価（各80点満点）を合計し、得点化とする。ただし、各種目で評価dが3つ以上ある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
(ア) 意欲、態度	当該種目に積極的、意欲的に取り組んでいる。
(イ) 当該実技の技能観点1	当該種目における技能を身に付けている。
(ウ) 当該実技の技能観点2	当該種目における技能を身に付けている。
(エ) 当該実技の技能観点3	当該種目における技能を身に付けている。
(オ) 当該実技の技能観点4	当該種目における技能を身に付けている。

(5) 志願理由書

評価項目	評価基準
ア 志願の理由	本校入学の意志について確認する。
イ 自己アピール	特に優れた内容について、総合的に判定する際の参考とする。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の成績」、「調査書の得点」、「第2日の検査（面接・適性検査）の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、各選抜資料の評価等について慎重に審議しながら、予定人員までを入学許可候補者として内定する。

<総得点の満点の内訳>

学力検査の成績	調査書の得点	第2日の検査の得点		総得点
	評定（算式1）	面接	適性検査	
500点	$(135 + \alpha - m)$ 点	40点	410点	$(1085 + \alpha - m)$ 点

（算式1） α ：県が定める評定合計の標準値95

m ：当該志願者の在籍する中学校の第3学年（義務教育学校にあつては、後期課程の第3学年）の評定の全学年の合計値の平均値

(2) その他

自己申告書が提出された場合には、選抜のための資料に加える。提出されたことにより、不利益な取扱いはしない。

5 その他

過年度卒業者については、第2日の検査終了後、別途個人面談を行う。